

令和 7 年度 第 4 回
(仮称) 富士宮市立郷土史博物館基本計画策定委員会

日 時 令和 7 年 12 月 18 日 (木) 15:00~17:00
場 所 富士宮市役所 112・113 会議室

次 第

1 開 会

2 議 事

(1) 立地について

(2) 展示計画 (案)

資料 1

(3) 管理運営計画 (案)

資料 2

(4) 事業推進計画 (案)

資料 3

(5) 今後のスケジュール

資料 4

3 閉 会

博物館の立地について

1 立地候補地の検討について

(1) 方向性

- 目指す博物館の姿である「基本理念 富士宮市の歴史・文化を学び未来を拓く、人づくりの拠点」と「市民とともにつくる博物館」としての役割を果たすことのできる場所であること。
- 費用を抑えるために、市の所有地で検討する。
- 基本計画策定委員会、市民説明会、ワークショップ、博物館ツアーなどでいただいた意見をもとに市が立地を決定する。

(2) 検討の流れ

- ① 市民説明会、ワークショップ、博物館ツアーなどの意見を基本計画策定委員会で報告し、委員の意見をいただく。

意見：別紙1

- ② 委員会の検討の中で、郊外型と都市型について議論が必要であるとの意見があつたため、郊外型か都市型かの意見をいただく。

意見：別紙2

検討資料：「郊外型/都市型比較」「新施設の立地選定にかかる検討資料」

(3) 検討状況について

- ① (2)①②の意見、市としての考え方から都市型で進めることとしたい。

都市型選定のポイント：別紙3

- ② 都市型の2つの候補地（きらら駐車場、神田川観光駐車場）から「きらら駐車場」を候補地としたい。

候補地選定のポイント：別紙4

代替駐車場を確保する必要性：別紙5

(1)ワークショップでの立地に関する意見

- ・「ハブ」として機能しやすいアクセスのよい場所
- ・子どもが一人でも通える場所
- ・広さがあること
- ・冬の寒さが厳しくない（気候的に安定）
- ・利便性
- ・アクセスのよいところ
- ・回遊の拠点
- ・広さなら白糸、バランスの万野、利便性のきらら、歴史ロマンの大宮小
- ・万野風穴池田公園（遠すぎず、適度に郊外）
- ・神田川観光駐車場

(2)博物館見学ツアーでの立地に関する意見・アンケート

- ・市内の古い家などを活用して分散できないか
- ・建てる場所は、へき地では足を運べない。まちなかが良い。
- ・駅前にコンパクトにつくって、まちの活性化になるのか？
- ・公園に隣接するとよい。
- ・街中という意見が多かったが、私もそう思う。
- ・中心市街地に立地できれば一番良いが、空地がほとんど無い。
- ・浅間神社周辺に造つたらどうか。

(3)市民説明会

■既存建物の活用

- ・文化財保存管理は重要だが、新たな建物を建てないことも考えてほしい。
- ・学校の統廃合や公共施設の管理を含めて考えるべき
- ・商店街の空き店舗活用
- ・図書館を利用しては
- ・高校の統廃合で使わなくなる校舎を生かしては。
- ・廃校を利用して成功している博物館もある

■候補地

- ・場所は決まっているのか
- ・きらら駐車場にすると、駐車場が減ってしまう。
- ・きららに決まっているのか。
- ・白糸で周辺と連携（上井出会い場）
- ・まちなかが有力と思うが、駐車場の代替は。

(4)フォーラムアンケートでの立地に関する意見

- ・きらら駐車場の場合、市の中心部は道路が混雑して日常生活に支障がある状況。せっかく作るなら狭いところではなく十分な広さで充実した施設としてほしい。

(5)策定委員会での立地に関する意見

第2回策定委員会(8月)

- ・郊外型の博物館と都市型の博物館ではできることが違ってくる。
都市型、郊外型について委員会で共有する必要がある。
- ・廃校の活用の検討
- ・どういう博物館を作りたいかの後にどこでつくるかである。

第3回策定委員会（10月）での立地検討についての意見

立地について

郊外型と都市型

郊外型

メリット

必要な機能確保のための面積確保がしやすい

白糸は災害リスクが低い

デメリット

公共交通（バス）を利用した場合、お金がかかる。

バスの本数が少ない

子どもがバスで行く場合、乗り換えが必要

入館者数の確保は厳しい。

都市型

メリット

コンパクト化であれば都市型でも対応が可能か

バス1本で行ける（子どもが自力で行きやすい）

子どもが行きやすい。

高校生など勉強できる場として来やすい。

市街地にある他の社会教育施設等との連携が可能

商店街との連携で回遊性が増し、まちなかの活性化になる

デメリット

駐車場の確保が必須（ただし、PFIなども検討可）

敷地が狭く必要な面積の確保が可能か？（ただし、複層化など対応可）

渋滞対策

きらら駐車場

- ・きららとの連携
- ・駐車場を周辺に求めることで、市民の理解を得る
- ・大型バスは神田川観光駐車場に止め、まちを歩いて観光してもらうことがよい。活性化につながる。
- ・立地的には便利だが、計画している面積がとれるか。
- ・市内の高校の真ん中にあり、人が集まりやすい場所

神田川観光駐車場

- ・世界遺産センターが近くてよい。
- ・駐車場の場所が分かりにくいという声がある。
- ・西公民館との連携

【郊外型／都市型比較】

	郊外型	都市型
立地イメージ	市北中部の富士山麓エリア	主要駅に近い中心市街エリア
参考候補地※	白糸自然公園、富士山さくらの園、万野風穴池田公園	きらら駐車場、神田川観光駐車場
施設への交通アクセス	・公共交通機関が限られるため、自家用車、団体バス利用が中心となる	・公共交通機関を用いて徒歩でアクセス可能
用地確保	<ul style="list-style-type: none"> 比較的広い敷地が確保しやすい 敷地内に屋外の体験学習スペースが確保しやすい 敷地内に駐車場が確保しやすい 	<ul style="list-style-type: none"> 郊外と比べ確保可能な敷地と面積が限られる 敷地内に屋外の体験学習スペースを確保しにくい場合は、屋上利用などの代替案を検討 敷地内に十分な駐車場を確保できない場合は、周辺駐車場との連携などを検討
施設計画	<ul style="list-style-type: none"> 都市型と比べ施設規模や配置計画等において自由度の高い検討が可能。 周辺の自然や景観を活かした施設計画が検討可能 	<ul style="list-style-type: none"> 敷地条件により可能な施設規模や配置計画等に制約がある 建物の高層化や、周辺施設との機能連携等によりコンパクトな施設計画が検討可能
集客性 ・ 回遊促進効果	<ul style="list-style-type: none"> 来館目的で訪れる人が中心となる 周辺の自然公園や観光地等への回遊効果が期待できる 	<ul style="list-style-type: none"> 来館目的で訪れる人に加え、周辺施設利用者による立ち寄りが期待できる 周辺の文化施設や商業施設への回遊効果、経済効果等が期待できる
まちづくりへの寄与	<ul style="list-style-type: none"> 本施設の整備だけでは、まちづくりの寄与は難しい 市内の回遊性を向上するためには、交通アクセスの拡充や、周遊につながるルート開発などが求められる 	<ul style="list-style-type: none"> まちなかの交流拠点として、「富士宮市世界遺産のまちづくり整備基本構想」における各エリアとの相乗効果が期待できる
文化財保存施設としての災害リスク	<ul style="list-style-type: none"> 各種ハザードマップへの配慮が必要 外部自然環境に起因する文化財 IPMへの配慮が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 各種ハザードマップへの配慮が必要 火災やゲリラ豪雨等の都市災害への配慮が必要

候補地	きらら駐車場	神田川観光駐車場
所有者	富士宮市	富士宮市
住所	中央町151番地11	宮町345-20
面積 ^{※1}	2,994.55 m ²	7,746.13 m ²
敷地概要	用途地域 (地区計画の有無) ^{※2} 商業地域(容積率400%、建ぺい率80%)、準防火地域(地区計画なし)	第二種住居地域(容積率200%、建蔽率60%)日影規制あり(10m以上)(地区計画なし)
標高(参考値) ^{※3}	120.0m	112.1~115.7m
既存施設・構造物の有無	既存構造物あり(駐車場バーゲート、駐輪場)	既存建物あり(駐車場バーゲート、トイレ、観光課倉庫)
公共交通機関	JR富士宮駅より徒歩5分。	JR富士宮駅より徒歩11分。世界遺産センターバス停より徒歩3分。
交通アクセス	自家用車等 (現状での駐車スペースの有無) 乗用車約105台分の駐車スペースとして利用されている。施設整備の際は、配置も含めた駐車スペースの検討が必要。	乗用車100台分と自動二輪車25台分の駐車スペースとして利用されている。施設整備の際は、配置も含めた駐車スペースの検討が必要。
大型バス 駐車場や乗降スペースの整備が必要。		大型バス20台分の駐車スペースと乗降場がある。
回遊促進効果	徒歩圏内の主な歴史文化資源 (1キロ圏内) 22件 大頂寺、平等寺、宗心寺、富士山本宮浅間大社、湧玉池、若之宮浅間神社、二之宮浅間神社、兵松寺、大宮町鉄道馬車会社発着所の碑、矢立池の碑、悪王子神社、二つ石、横道観音、馬車道、大宮網状溶岩、御神幸道三丁目の碑、福石神社、蔵屋敷稻荷、神田市神社、中央町のカヤ、芙蓉館碑、富士見石、富知神社、渋沢用水、水神碑、本光寺、富士亦八郎重本筆跡の道祖神、忠正寺、貴船神社、大泉寺、善能寺等	24件 大頂寺、富士山本宮浅間大社、湧玉池、若之宮浅間神社、二之宮浅間神社、兵松寺、馬車道、大宮網状溶岩、御神幸道三丁目の碑、福石神社、蔵屋敷稻荷、神田市神社、中央町のカヤ、芙蓉館碑、富士見石、富知神社、渋沢用水、水神碑、本光寺、富士亦八郎重本筆跡の道祖神、忠正寺、貴船神社、大泉寺、善能寺等
主なサービス機能・文化施設等 (1キロ圏内)	5件 富士山世界遺産センター、市民文化会館、市立中央図書館、駅前交流センターきらら、富士宮市役所	4件 富士山世界遺産センター、市民文化会館、市立中央図書館、駅前交流センターきらら
まちづくりへの寄与	「富士宮市世界遺産のまちづくり整備基本構想」における「にぎわい創出ゾーン」の東側エリア・商店街への拡張・回遊促進効果が期待でき	「富士宮市世界遺産のまちづくり整備基本構想」におけるコアエリアの「参道軸創出ゾーン」の一層強化が期待できる。



敷地の自然災害リスク	浸水域 ^{※4}	○	指定外	○※	指定外 (※浸水域に近接)
	土砂災害 ^{※4}	○	指定外	○	指定外
	想定火口範囲 ^{※5}	○	指定外	○	指定外
	溶岩流 ^{※5}	△	溶岩流が7日間で到達する可能性のある範囲	×	溶岩流が24時間で到達する可能性のある範囲
	火碎流・火碎サージ ^{※5}	○	指定外	○	指定外
	融雪型火山泥流 ^{※5}	×	融雪型火山泥流が2時間で到達する可能性のある範囲	×	融雪型火山泥流が2時間で到達する可能性のある範囲
	大きな噴石 ^{※6}	○	指定外	○	指定外
	降灰・降灰後土石流 ^{※5}	△	降灰10cm以上30cm以下の範囲	△	降灰10cm以上30cm以下の範囲
	活断層 ^{※6}	直下に活断層はない		直下に活断層はない	
	液状化 ^{※4}	○	指定外	△	敷地の一部が液状化可能性ランク中に該当
その他特記事項	<ul style="list-style-type: none"> 立地から地下水位が高いとの情報あり。地下利用には慎重な検討が必要。 現駐車場はきらら及び商店街利用者等の利用があり、本施設整備後も駐車台数の確保が必要。駐車スペースの一部は別敷地で確保するなどの検討が必要。 			<ul style="list-style-type: none"> 道路を挟んだ敷地が潤井川浸水想定区域に該当。浸水時に交通アクセス等に影響が生じる可能性あり。^{※4}  <ul style="list-style-type: none"> 既存の観光バスの駐車・旋回スペースを確保した計画が必要。 市街地の大型バス駐車場が限られているため、台数の確保が必要。 敷地が建設省所有地（下部暗渠有）で3分割されており確認要。 JRに影響がないように計画する必要あり。 	

「都市型」選定のポイント

基本理念の「人づくりの拠点」、役割としての「人々が気軽に訪れ、憩い、交流し、活動を行う点、「市内を巡るきっかけ」として、交通アクセスなどの利便性が高い点が重要である。他の点においても利点が多い。

・施設への交通アクセス

人づくりの拠点として、市民が行きやすいこと。

特に、小中学生、高校生が行きやすい。子どもだけでも行ける場所

・用地確保

収蔵について、別に既存施設を活用することでコンパクトな施設が可能

複層化により限られた場所でも整備が可能

・施設計画

費用面からもコンパクト化で進める。

駐車場については、必要台数を精査し、混雑時に別の駐車場が確保できるようにする。

・集客性・回遊促進効果

まちなかへの回遊性が期待できる。

・まちづくりへの効果

商店街や公共施設と連携した効果が期待できる。

まちなかの賑わい創出

・文化財保存施設としての災害リスク

ハザードマップに配慮した建築構造等とすることで対応可

候補地選定のポイント

- ・アクセス性の高さ
- ・駅前にぎわい創出、まちなかの回遊性向上
- ・商店街との連携

などの点から基本理念「富士宮市の歴史・文化を学び未来を拓く、人づくりの拠点」として博物館の立地に最もふさわしい場所は、「駅前交流センターきらら駐車場」と考えられる。

■誰もが利用しやすい “アクセスの良さ”

- ・駅前ため、徒歩・バス・電車でも来館しやすい
- ・子どもや高齢者、市外の方もアクセスしやすい
- ・学びを支える「人づくりの拠点」の理念に最も合う場所
→ 博物館は「来て学ぶ場所」であり、行きやすい場所にあるほど参加しやすい。

■駅前にぎわいを生み出す

- ・展示・イベントで定期的な人の流れをつくる
- ・若い世代や家族連れが街にくる機会が増加
- ・富士山本宮浅間大社などへ徒歩でめぐることで回遊が生まれる。
→ 「富士宮市世界遺産のまちづくり整備基本構想」における「にぎわい創出ゾーン」の東側エリア・商店街へ回遊促進効果が期待できる。
- ・市外からの観光客も訪れやすく、周辺の観光動線ともつながる。
→ 大型バスの観光客は、駅前通りで降りてもらい、バスは神田川観光駐車場で待機。観光客には街を巡りながら駐車場に歩いてもらうことを想定。

■商店街との連携がしやすい

- ・商店街が徒歩圏内
- ・来館者が自然と商店街に足を運びやすい
- ・商店街と連携した企画が可能
 - まち歩きツアーや
 - スタンプラリー
 - 博物館テーマに合わせたフェア
 - サテライト展示など

※神田川観光駐車場は

- ・まちなかの観光バスの駐車場としての位置づけがある。(20台分)
- ・大型バスの駐車場は、大社のほかには、神田川観光駐車場しか駐車場所がない。(確保しておきたい)
- ・大社、世界遺産センター、博物館と縦軸の強化にはなるが、商店街等横軸への効果が薄い
- ・浸水や液状化リスクのある場所に隣接している

代替駐車場を確保する必要性

- 市営駐車場に博物館を建設した場合、代替の駐車場を確保する必要があるが、きらら駐車場であれば、周辺に民間駐車場があり、活用することが可能となる。

- きらら駐車場 ($3,000\text{ m}^2$ 、105台) に博物館を建てると、博物館には $2,240\text{ m}^2$ 必要であり、約 750 m^2 を3階建てとすることで建設できる。敷地の3分の1、およそ 1000 m^2 、35台分の敷地を使用することとした場合、駐車場は $2,000\text{ m}^2$ 、70台分残る計算となる。障がい者用駐車場や通路等も考慮すると、およそ60台程度は残ることとなる。
- きらら駐車場の利用状況は、通常30~40台程度(きらら以外の周辺の利用者含む)であり、これに博物館利用者分を20台程度確保しても60台あれば足りる計算となる。
- しかし、初詣や宮おどり、きららまつりの日など周辺でイベントがある日は時間帯により一時的に満車になることもあることを確認している。
- まちなかを調査し、駐車場として利用している場所はおおよそ把握(企画戦略課調査)したが、「月決め駐車場」が多い状況を確認している。

◎きらら駐車場の利用状況(令和6年度)

・満車の日 年間3日

関係するイベント 十六市、初詣

関係するきらら使用内容 きららまつり

・60台以上在庫の時間帯がある日 年間79日

関係するイベント 御神火まつり、宮おどり、富士宮まつり、十六市、初詣

関係するきらら使用内容 きららまつり、集会室使用等

半径約250mにある民間駐車場

コインパーキング 6か所 約70台、

月極駐車場 34か所(10台以上の規模) 約400台以上

イベントへの対応

・きらら祭り：民間駐車場の活用

・十六市：民間駐車場の活用

・流鏑馬、秋祭り：城山球場

→混雑時の代替駐車場を確保する必要性がある。

- 現状、代替駐車場が確保できていない状況であるが、今後、具体的な対応策を講じる。

対策検討

対策案①：周辺の既存駐車場の活用・提携

・駅前周辺のコインパーキングなどとの提携

・イベント時の「協力駐車場」設定

・市として案内表示・Web案内を強化

対策案②：イベント時は臨時駐車場を確保する

・民有地の一時借用(例：休日のみの活用)

対策案③：混雑が予想される日は、事前に情報提供

・イベント開催日を分かりやすく告知

・駐車場の混雑予想を前もって周知

・公共交通利用の呼びかけ、ルート案内

◆展示計画 検討資料

1. 基本方針

本博物館の展示は、以下の基本方針に基づき構成します。

1

富士宮市の歴史・文化の入口として、 市の全体像と魅力を紹介する展示

- ・富士宮市の成り立ち、人々の営み等の全体像を外観できる展示を行います。
- ・展示を通して、市内各地に点在する歴史文化資源へ誘導します。

2

来館のたびに新しさを感じる展示

- ・富士宮市の魅力や特徴を様々な切り口で取り上げができるよう、展示替えにより多様なテーマの展示を行います。
- ・収蔵資料の保存と活用を両立するため、実物資料の展示替えを行いややすい構成（展示ケース、キャプション等）とします。

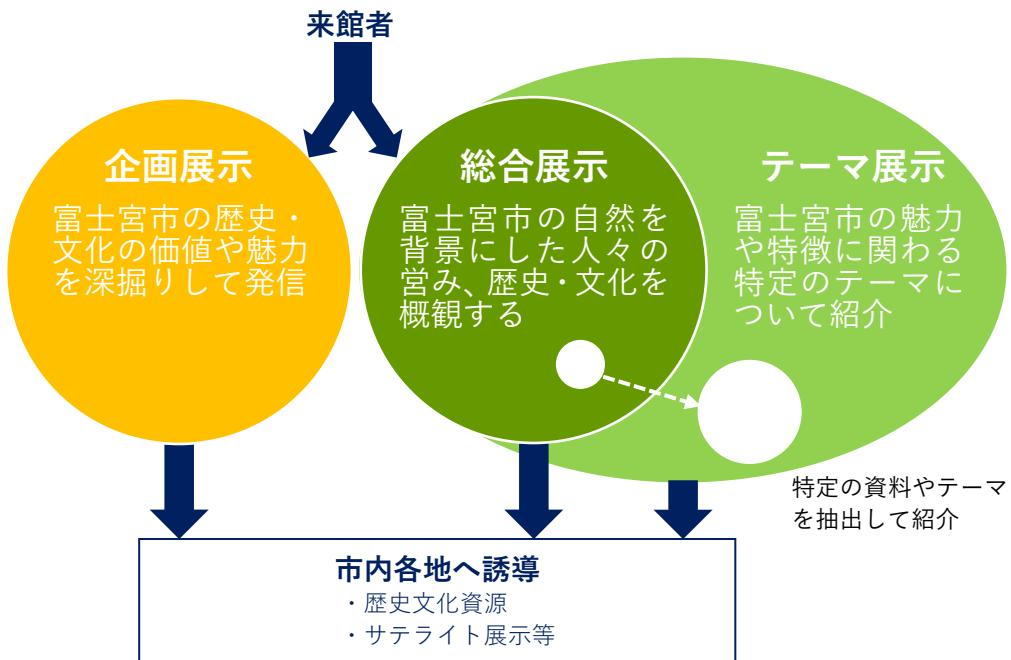
3

市民と共につくる展示

- ・学芸員と市民が協力して、調査研究の成果を発表します。
- ・学校等と連携した富士山学習や個人・団体等の研究成果の発表の場を提供します。
- ・展示の改善を目指し、来館者アンケート等を実施します。

2. 展示の基本構成とテーマ

本博物館の展示は、以下の3種類の要素で構成します。



(1) 総合展示

富士宮市の地形や成り立ちを知り、そこで育まれた人々の暮らしが生み出した歴史や文化の全体像を体感できるコーナーとします。富士山を含む地形模型や資料、映像、プロジェクションマッピング等を交えて、歴史の流れや祭等の伝統芸能など多様な歴史文化についても総合的・多層的に表現し、富士宮市への歴史・文化への興味を高めるきっかけとします。

<展示要素>

- ・富士宮市の地形の成り立ちと自然環境
- ・市域の歴史の変遷（原始・古代～現代）
- ・現在の富士宮市の姿（市街地、自然環境、歴史文化資源（祭等の無形文化財を含む）等）等

総合展示イメージ図

(2) テーマ展示

広い市域と多様な歴史文化資源をもつ富士宮の歴史文化について、地域ごとの特徴や魅力を、収蔵資料を交えて紹介する展示を行います。適切な資料管理のため、また、より多くの収蔵資料を活用するため、短期間に展示替えを行い、いつ来ても新しい展示に出会うことができるようになります。

○市内のすべての地域を紹介する内容を地域ごと作成し、入れ替えによりすべての地域を紹介できるようにします。地域に縛られない特徴あるテーマについても展示します。

○富士宮の歴史文化の中核となるもので常時の展示を行うものは、新たな情報や収蔵資料の変更で常に新しい発見のある展示とします。

○地域の特徴やその他の多様なテーマは、季節ごとや学校との連携などその時々にあったテーマと収蔵資料を組み合わせた展示とするため、ユニット式等の展示替えしやすい展示設備を備えます。

○展示替えにあたっては、学芸員による企画に加え、展示をつくるプロセスを含めて、市民とともにつくりあげていく事業を展開します。

<テーマ例>

- ・旧村（または中学校区）ごとの特徴や魅力を伝える展示
- ・富士宮市の自然の特徴に関わるテーマ：湧水、溶岩（風穴・人穴等）、災害等
- ・富士宮市の歴史に関わるテーマ：遺跡、中道往還、富士の巻狩、富士講、近代化、戦争等
- ・富士宮市の文化に関わるテーマ：祭・年中行事、囃子、浅間大社、流鏑馬、仏像、曾我兄弟等
- ・富士宮市のくらしに関わるテーマ：川、用水、発電、農業（林業・酪農等）、工業等 等
- ・回想法に活用できるテーマ：昔の暮らしや生業に関わる道具や学校等
- ・触れる展示：実物資料やレプリカで、資料の大きさや重さ、手触りを体感する

テーマ展示基本ユニットイメージ図

(3) 企画展示

富士宮市の歴史・文化に関わる特定のテーマを取り上げた企画展示を行います。国宝や重要文化財等の借用資料等を含む幅広い資料を展示できるよう、展示ケース等の必要な設備を備えます。

また、市民による調査研究の成果を活用した展示、学校教育と連携し児童生徒の学習に役立つ展示も実施します。

<テーマ例>

- ・富士山信仰
- ・昔のくらし（民俗資料展示）
- ・縄文の美学
- ・身延線
- ・「富士宮やきそばの歴史」文化庁100年フード宣言
- ・富士五山の宝物展
- ・富士宮のおいしいミルクの秘密
- ・家康のおもてなし「信長の富士宮観光旅行」
- ・酒と水
- ・市政（総合計画や新たな計画の発表） 等



企画展示室イメージ図

(4) 展示解説

グラフィックによる展示解説に加え、多様な利用者に向けた展示解説を行います。

- ・ユニバーサルデザイン：外国人への多言語対応、多様な障がいのある人に向けた適切な手法で情報を提供します。
- ・子ども解説：展示解説の他に、楽しみながら学べる子ども向けの解説資料を提供します。

- ・学年別ワークシート：学校教員等と連携し、学習指導要領と連携したワークシートを作成します。
- ・ギャラリートーク：総合展示に関する定期的なギャラリートーク、企画展と連携したギャラリートーク、テーマ展示の更新時のギャラリートーク等を開催します。

（5）サテライト展示

博物館内の展示だけでなく、市内の公共施設等でサテライト展示を展開し、より多くの市民に郷土の歴史文化を知っていただくことに加え、博物館を訪れるきっかけとします。

◆管理運営計画（案）

1 運営主体及び運営方式

富士宮市により推進され培われてきた調査研究の数々を継続的・発展的に推進していくため、本博物館の運営主体及び運営方式は以下のとおりとします。

【基本的な考え方】

○博物館法（令和4年法律第24号）第11条第1項に規定する「登録博物館」とします。

○運営主体は富士宮市とします。

○博物館の管理運営方法は、市による直接運営方式と指定管理者制度の導入の2つが想定されます。

一般的に、指定管理者制度の導入により、民間のノウハウを活用して利用者に質の高いサービスが提供されることが期待されますが、指定管理者は5年程度で更新となることから、交代による業務の継続性や人材育成などの長期的な観点における懸念があります。

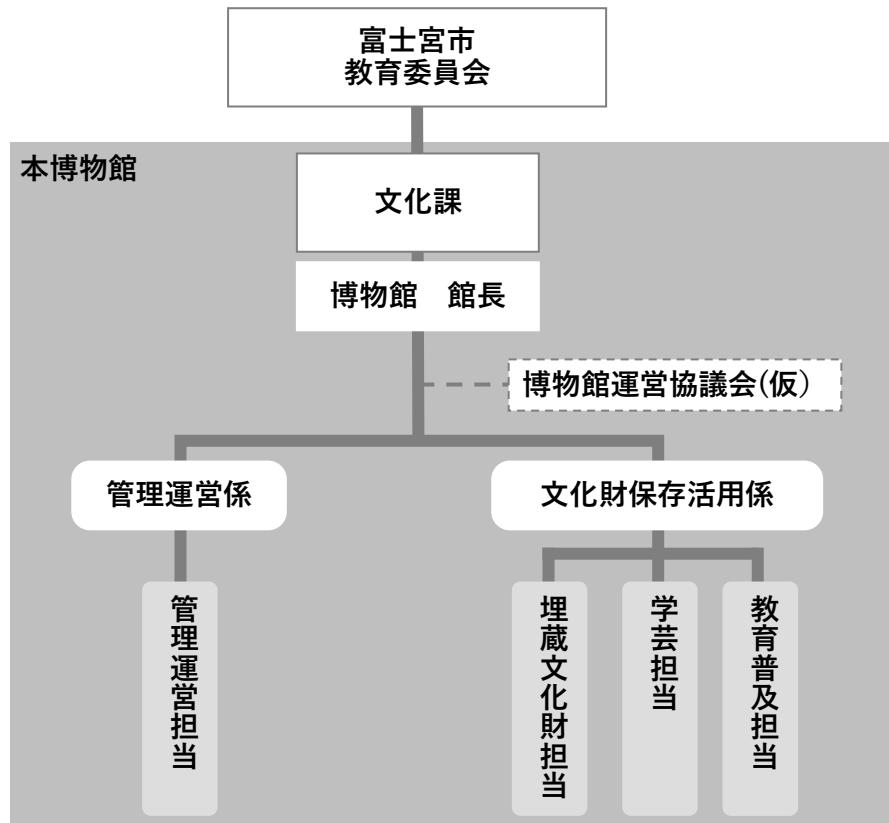
博物館は、重要文化財や富士宮市の貴重な歴史文化資源を扱う場であり、また、調査研究を継続的に進めることから、文化財に精通した市の学芸員等により継続的・安定的に運営する必要があります。

これらのことから、重要文化財などの取扱いや調査・研究の継続性・安定性を確保しつつ、効率的な管理運営ができるよう、直接運営方式と指定管理者制度のメリット・デメリットを勘案して管理運営方式を決定します。

2 組織体制

本博物館の組織体制の例は、以下のとおりとします。

【組織体制例】



3 開館形態

本博物館の開館形態は、以下の方向性とします。今後、施設整備を進める中で検討し、開館までに決定します。

（1）開館時間

具体的な開館時間や休館日等については、市民等の利便性を考慮しながら、今後検討します。

（2）入館料

本市の歴史文化資源を継続的かつ効果的に保存管理し活用していくために、入館料を徴収します。入館料の額は、減免対象なども含めて、今後検討します。

＜検討課題＞

- ・有料とする範囲（展示全体、企画展のみ等）
- ・減免対象（市民、未就学児・児童・生徒、高齢者、障がい者等）
- ・減免内容（無料、割引等）
- ・減免範囲（展示全体、総合展示・テーマ展示のみ） 等

◆事業推進計画（案）

1 事業スケジュール

本博物館の整備に向けた基本的なスケジュールは、以下のとおりです。
なお、スケジュールは、状況により変更することがあります。



2 博物館整備に向けた今後の取組

（1）事業活動実施に向けた取組

博物館の開館時から事業を展開するために、開館前にできる準備を進めて事業実施のための体制を整えます。

- これまで郷土資料館として収集保存した資料や調査・研究した資料等を、博物館や博物館のホームページで公開し市民等が活用できるように、データベース構築に向けて整理やデータ化を進めます。
- ネットワーク計画に示した連携先と連携事業例の実現に向けて、繋がりや連携を深めるため勉強会や意見交換などを行います。

（2）市民とともにつくる博物館のためのイベントなどの実施

基本計画策定はワークショップなどで市民の意見を参考に策定しましたが、今後の基本設計や事業実施に向けて市民が参画できる機会を創出して博物館に対する機運を醸成します。

- 市民とともに、他市の博物館やそこで行われる活動の見学などを通して、基本設計などのハード面や事業展開などのソフト面についての意見交換を行います。

- ・学校と連携し児童生徒に対して博物館に関連した出前講座や郷土資料館での展示を行ったり、市民に向けた各地域の歩く博物館探索会や歴史講座等、郷土の歴史文化に興味をもってもらえる事業を継続して行います。
- ・市民が主体となる講座やイベントを通して、市民が博物館事業に参画して博物館開館に向けた活動を行うとともに、開館後も活動が継続できるような体制を整えます。
- ・親しみやすい愛称などを市民から公募して博物館開館への機運を高めます。

（3）収蔵資料の移転

現在、市で保存管理する文化財などの歴史文化資源は、埋蔵文化財センター及び芝川会館で保存されていますが、埋蔵文化財センターの場所が浸水想定区域となっていることから、収蔵資料を安全な場所に避難させることが急務となっています。

博物館整備事業と並行して移設・整理する必要があるため、現在も利用している芝川会館や、市立病院が管理する旧東京電力跡地等を活用し、浸水被害から大切な収蔵資料を守ります。

収蔵資料はまとめて管理することが望ましいことから、今後、市内の学校施設等にスペースができた際には一か所にまとめて保存管理することとします。

(5) 今後のスケジュール

資料4

令和8年度									
	R7.10	R7.11	R7.12	R8.1	R8.2	R8.3	R8.4	R8.5	R8.6
立地検討		立地候補地選定			立地決定				
策定委員会	第3回		第4回		第5回			第6回	
市民説明				立地候補地 住民説明会		市民説明会			
パブリック・コメント						パブコメ			
教育委員会	定例会		定例会	総合教育 会議	定例会			定例会	
議会	全員協議会 (中間報告)				立地報告			最終報告	
備考					素案完成		意見集 約・反映	計画完成	委託成果 品納品